

企業ネットワーク導入SWG 活動報告

2013.11.25
荒野高志

【SWGの目的】

- ISPのIPv6サービスの普及、2014年4月のWindows XPのサポート終了など企業ネットワークのIPv6導入にむけた環境が整いつつある
- 企業ネットワークへの導入シナリオを策定するとともに、企業、自治体、SIer/NIerなどへの普及戦略を練る

【期待する成果】

- IPv6企業ネットワーク導入ガイドライン開発(なるべくコンパクトにポイントをついたもの)
- 各種普及啓発(他団体やメディアとも連携)

【活動計画】

- 個々のトピックについて各回で議論
- 年度末までにガイドライン作成

【対象】

- 企業には、例えば製造業であれば生産機械をつないだ生産管理用のネットワークなどがあるが、本SWGでは対象外
 - 企業が生産販売する機器への対応も対象外
- 主にイントラネット、公開サーバ、リモートアクセスなどの一般の企業業務用のネットワークを対象とすることにする

検討において最重要

Why

導入モチベーション(仮説)

消極的理由

- ・インターネット上でデュアルスタックが常識となってきたのでとりあえず(だいぶ先か?)
- ・Windows XPのサポート終了で少なくとも端末は自動的にIPv6となるため
- ・LAN上のセキュリティ問題への対応

積極的理由

- ・広大でフラットなアドレス空間の利用???
- ・企業内多重NATで動かないアプリケーション???
- ・マルチキャスト? IPsec?

所詮はIPv6はインフラ技術だが、それが上位レイヤに染み出してくるポイントをとらえられるか?

Where

IPv6適用箇所

- ・事業用サーバー(インターネット上のサービス提供)
- ・その他の公開サーバー(メール、企業ウェブ等)
- ・DMZ／インターネットとの接点
- ・イントラネット

When

タイムライン(きっかけ)

- ・XPサポート終了時
- ・インターネット回線サービスでデュアルスタックが主流に
- ・世界でIPv6でしか到達できない場所ができる(いつ?)

導入へのバリアの分析

- ・フォールバック問題が解決したのかどうか知られていない
- ・googleをはじめとしてIPv6がインターネット上でけっこうなトラフィックが流れつつあることが知られていない
- ・v4アドレスが足りているので不要という認識
- ・(企業webに関して)楽天などの大手がやっていないのに自分たちは必要ない

- 企業ITにおいては、②の人が多いと思われる
- ②の人を③、できれば④まで引き上げるのが目標

基本的な考え方

- 正しい情報を伝える
 - IPv6普及状況(統計情報等): 最新の状況は案外知られていない
 - 正しい技術情報、正しい手法を伝える
 - 最先端ユーザの取り組みを広める
- IPv6協議会としてのガイドを示す
 - いつ何をすべきか
 - その際のメリット・デメリットは何か?: 何もしない選択肢のリスクも示す
- 広報戦術
 - 他団体、メディアと連携する
 - メディア対応等では
 - 一気に何人かが並行して語る
 - 統一性のある内容を継続的に語る

IPv6適用レベル

- ①何も知らない
- ②知っているが何もしない
- ③v6対応準備は完了しているが、実際に利用はしていない
- ④部分的に利用
- ⑤全面的にdual stack
- ⑥IPv6 only

第一回 10/22

- ・「国内外インターネットのIPv6普及の状況」 三菱総研 津国氏
- ・「企業環境の変化に対応できるネットワークとIPv6導入効果」 ソニー平賀氏

第二回 12/11 (予定)

- ・「Windows XPサポート終了と、v6 ready端末があるv4only管理ネットワークのリスクについて」 インテック廣海氏
- ・「フォールバック問題と現在の解決状況について」 JAIPA 木村氏

ぜひご参加ください

第三回以降

- ・「アプリケーションからみた企業内の多重NATの問題点」
- ・「エンタープライズ向け各種アプライアンスのIPv6対応状況」
- ・「公開サーバのIPv6対応における注意点」
- ・「中小企業のIPv6対応」
- ・その他事例など